

学外宿泊オリエンテーションの教育効果の検証

辻野 順子*, 森川 英子**, 西 美江*,
津田 尚子***, 高井 聡美*, 中楠 登志子***,
中山 真理***, 岡本 恵****

Inspection of educational effects of off-campus lodging orientations

Junko Tsujino, Hideko Morikawa, Mie Nishi,
Naoko Tsuda, Satomi Takai, Toshiko Nakakusu,
Mari Nakayama and Megumi Okamoto

要約：短期大学の新生を対象とした学外宿泊オリエンテーションの教育効果を検証した。研究対象者は273名の女性である。一日目のオリエンテーションの開始直後と二日目のオリエンテーション終了直前の二回、同じ内容の質問紙を使用し回答を求めた。オリエンテーションの前後において、オリエンテーションの意義、状態不安、そして、友人関係場面における目標志向性を比較検証した。オリエンテーション後は、オリエンテーション前よりもオリエンテーションの意義が有意に高く、状態不安は有意に低くなった。そして、友人関係場面における目標志向性は有意に低かった。オリエンテーションの意義と状態不安が相互に関係し、学外宿泊オリエンテーションの教育効果を高めたと考える。また、友人関係場面の目標志向性を高めるには、時間と学生同士が触れ合う機会が必要であると推測する。

Abstract : The educational effects of off-campus lodging orientations targeting junior college freshmen were inspected. The targets of research were 273 females. The orientation used lodging facilities and was carried out over a period of 1 night and 2 days. Responses were requested twice, one immediately after the start of orientation and another immediately before the finish, using question sheets having the same contents. Significance of orientation, state of anxiety, and goal-direction regarding the situation of relationships with friends, before and after the orientation, were measured and changes were inspected. The significance of orientation was significantly higher after the orientation than before, and the state-anxiety was significantly lower. Furthermore, goal-direction regarding the situation of relationships with friends was also significantly lower after the orientation. Deepened significance of orientation and decreased state-anxiety are reciprocally related, and are considered to have increased the educational effects of off-campus lodging orientation. In addition, to increase goal-direction regarding the situation of relationships with friends, it is speculated that time and opportunities for the students to come in contact with each other are neces-

* 関西女子短期大学 准教授

** 関西女子短期大学 教授

*** 関西女子短期大学 講師

**** 関西女子短期大学 助手

sary.

Key words : 宿泊オリエンテーション lodging orientations 教育効果 educational effects 新入生 freshmen

I 問題と目的

オリエンテーションは新しい大学環境への移行において、学生とその家族を支えることにより、学生の成功を向上させる大学の共同努力として定義することができる (Perigo & Upcraft, 1989)。

何よりもまずオリエンテーションは、新入生が学業的に成功することを手助けしなければならない。学生は、履修要件、提供されている科目、登録手続きなどを知る必要がある。彼らはまた、アドバイスや学習スキル、時間管理、個別指導に支えられた学業上のサポートや資源の幅広さについて情報を得なければならない。大学は、学生の大学生活への適応を支援する役割を担っている。学生が大学を心地よいと思うかどうかは、しばしばオリエンテーションの間に築かれる。

新入生が入学する 4 月には、多くの大学でオリエンテーションが実施される。高校生から大学生になることは大きな生活環境の変化であり、新入生は大学生活への期待のとともに不安を抱く者もいる。こうした中、新たな生活が始まる時期に新入生が、スムーズに大学生活をスタートできるようにとオリエンテーションが実施される。

本短期大学では、1992 年から学外宿泊オリエンテーションを実施し、新入生からは好評で着実に成果を上げている。当初は 2 学科それぞれにオリエンテーションを実施していたが、2000 年から宿泊期日と宿泊場所を同じくし 2 学科合同の学外宿泊オリエンテーションを行ってきた。また、2005 年には新たに 1 学科が設置され、3 学科合同の学外宿泊オリエンテーシ

ョンを行っている。

オリエンテーションを新入生に対する学生支援の一環と位置づけ、学内においては連続 3 日間のオリエンテーション (2 年生による新入生歓迎会、クラブ紹介、健康診断等も含め) を開催し、引き続き 1 泊 2 日の学外オリエンテーションを実施する。入学直後のため、学生は学生生活に戸惑いを抱いている時期ではあるが、あえてこの時期に大学生生活の基本を理解させるとともに新入生同士、そして、教員との親睦を深めることにより早期に学業に専念できる環境を整えるために行っている。

本短期大学の学外宿泊オリエンテーションの歴史は長く 17 年の歳月を数える。本短期大学の学外宿泊オリエンテーションの実績は歴史と共に積み重ねられてきたといえる。本研究目的は、その実績を検証するため、学外宿泊オリエンテーションの教育効果を検証することである。教育効果の実証的研究は学生の実態をより良く知ることであり、学外宿泊オリエンテーションの更なる発展と向上へと導くことになる。

本研究は、学外宿泊オリエンテーションの教育効果をオリエンテーションの直前とオリエンテーションの直後に同内容の質問紙を使用することにより、学生の心理的变化と教育効果を最小限のスパンで捉えた。

II 方 法

1. 調査対象者と人数

大阪府下にある女子短期大学の新生 280 名である。

2. 調査時期

平成 21 年 4 月 6 日～平成 21 年 4 月 7 日 (1

泊 2 日)

3. 調査の手続き

同内容の質問紙を使用し、1 日目のオリエンテーション開始直後と 2 日目のオリエンテーション終了直前の 2 回、同一の学生に対し回答を求めた。回答はマークシートに記入し、オリエンテーションの前後とも回答直後に質問紙とマークシートを回収した。

尚、外宿泊オリエンテーションは以下のように進行した。

〈第 1 日〉

13 : 15 } 16 : 00	・第 1 回 オリエンテーション
16 : 00 } 17 : 30	・入浴・フリー
17 : 40 } 17 : 50	・集合 ・学長あいさつ ・夕食
19 : 15 } 20 : 45	・交歓会

〈第 2 日〉

7 : 00	・起床、洗面、着替え
7 : 40	・朝礼
8 : 10	・朝食
10 : 00 } 11 : 30	・第 2 回 オリエンテーション
12 : 00	・昼食

4. 調査用具

(1) オリエンテーションの意義に関する質問紙 (辻野・森川、2009) 〈資料参照〉

本質問紙は、1 泊 2 日のオリエンテーションの意義を見出すために作成され、8 項目で構成される。尺度名は「オリエンテーションの意義」とした。「あてはまらない」～「あてはま

る」までの 5 件法で測定され総得点の範囲は 8 点～40 点の範囲にある。

(2) STAI 日本語版 (STAI ; STATE-TRAIT ANXIETY INVENTORY) (清水・今栄、1981)

本尺度は状態不安と特性不安が測定でき、それぞれ 20 項目で構成される。本研究は、自律神経の興奮などを伴う一時的、状況的な不安を測定する状態不安 (state-anxiety) を測定した。「まったくそうである」～「まったくそうでない」の 4 件法で測定され総得点の範囲は 20 点～80 点の範囲にある。

(3) 友人関係場面における目標志向性尺度 (黒田・桜井、2001)

本尺度は 3 因子 (経験・成長目標 (10 項目)、評価-接近目標 (8 項目)、評価-避目標 (7 項目)) で構成される。本調査は、因子 (経験・成長目標 (10 項目)) を使用した。「とてもあてはまる」～「まったくあてはまらない」の 4 件法で測定され総得点の範囲は 10 点～40 点の範囲にある。

Ⅲ 結果と考察

1. 研究対象者数

オリエンテーション前後の回答において、体調不良等で回答ができなかった学生、そして、記入漏れがあった回答は除いた。有効回答者数は 273 名であり、有効回答率は 97.5% である。

2. オリエンテーションの意義・状態不安・友人関係場面における目標志向性尺度の信頼性係数

オリエンテーションの意義、状態不安、そして、友人関係場面における目標志向性尺度の Cronbach のアルファ係数 (テストや尺度がどの程度、対象を正確に測ることができるのかを示す信頼性係数の 1 つ。1 に近いほど尺度項目の信頼性が高い) を示す (表 1)。

Cronbach のアルファ係数は、各尺度それぞれの信頼性が高く、本調査データを使用することができると判断した。

表 1 状態不安・友人関係場面における目標志向性尺度（経験・成長目標）・オリエンテーションの意義の信頼性係数

	オリエンテーション（前）	オリエンテーション（後）
状態不安	.892	.928
友人関係場面（経験・成長目標）	.848	.896
オリエンテーションの意義	.799	.875

表 2 オリエンテーション前後の状態不安・友人関係場面における目標志向性尺度（経験・成長目標）・オリエンテーションの意義の平均値（標準偏差；SD）・中央値・範囲

	平均値(SD)	中央値	範囲
状態不安（前）	44.8(9.4)	45.0	21-75
状態不安（後）	39.4(10.9)	39.0	20-71
友人関係場面（経験・成長目標）（前）	33.0(4.6)	34.0	13-40
友人関係場面（経験・成長目標）（後）	32.3(5.5)	33.0	10-40
オリエンテーションの意義（前）	26.9(5.5)	27.0	10-40
オリエンテーションの意義（後）	27.8(7.1)	29.0	9-40

3. オリエンテーション前後のオリエンテーションの意義・状態不安・友人関係場面における目標志向性尺度の平均値（標準偏差）・中央値・範囲

オリエンテーション前後のオリエンテーションの意義、状態不安、そして、友人関係場面における目標志向性尺度の平均値（標準偏差；SD）・中央値・範囲を表 2 に示す。

4. オリエンテーション前後のオリエンテーションの意義に関する有意差検定

オリエンテーション前後のオリエンテーションの意義の有意差検定を行った。その結果、オリエンテーションの意義に有意差を認めた (t 値 = 2.151、自由度 = 272、 $p = .032$)。オリエンテーションの意義の平均値から、これらの平均値の差は偶然に認められたものではなく、オリエンテーション後がオリエンテーション前よりも有意に高くなる（図 1）。学生の学生生活への参加意欲がオリエンテーションの意義を高めたといえる。

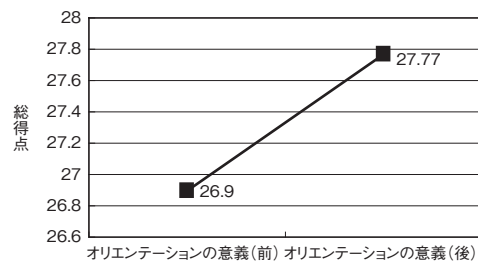


図 1 オリエンテーション前後のオリエンテーションの意義

5. オリエンテーション前後の状態不安の有意差検定

オリエンテーション前の状態不安とオリエンテーション後の状態不安の有意差検定を行った。その結果、オリエンテーション前後の状態不安に有意差を認めた (t 値 = 9.772、自由度 = 272、 $p = .001$)。オリエンテーション前後の状態不安の平均値から、これらの平均値の差は偶然に認められたものではなく、状態不安は、オリエンテーション後がオリエンテーション前よりも有意に低くなる（図 2）。オリエンテーシ

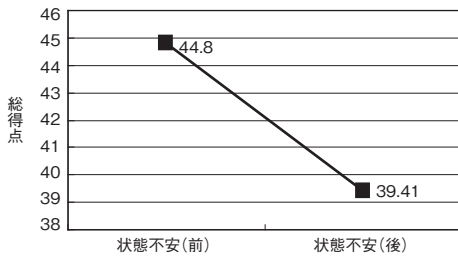


図2 オリエンテーション前後の状態不安

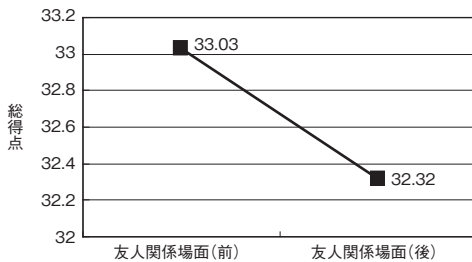


図3 オリエンテーション前後の友人関係場面における目標志向性尺度

オン前は学生生活への期待と共に不安も抱いていたと考えられるが、オリエンテーションの意義を感じる中で、状態不安が軽減したと推測する。

6. オリエンテーション前後の友人関係場面における目標志向性尺度の有意差検定

オリエンテーション前の友人関係場面における目標志向性尺度とオリエンテーション後の友人関係場面における目標志向性尺度の有意差検定を行った。その結果、オリエンテーション前後の友人関係場面における目標志向性尺度に有意差を認めた (t 値 = 3.105、自由度 = 272、 $p = .002$)。オリエンテーション前後の友人関係場面における目標志向性尺度の平均値から、これらの平均値の差は偶然に認められたものではなく、友人関係場面における目標志向性尺度の得点はオリエンテーション後がオリエンテーション前よりも有意に高くなる (図3)。

表3 オリエンテーション前後の状態不安・友人関係場面における目標志向性尺度 (経験・成長目標)・オリエンテーションの意義の6変数における相関係数

	不安(前)	不安(後)	友達(前)	友達(後)	意義(前)
不安(前)					
不安(後)	.604**				
友達(前)	-.371**	-.294**			
友達(後)	-.311**	-.397**	.730**		
意義(前)	-.351**	-.348**	.333**	.284**	
意義(後)	-.179**	-.318**	.232**	.257**	.471**

**相関係数は1%水準で有意である。

7. オリエンテーション前後のオリエンテーションの意義・状態不安・友人関係場面における目標志向性尺度の相関係数

オリエンテーション前後のオリエンテーションの意義、状態不安、そして、友人関係場面における目標志向性尺度の6変数の関係を知るため、相関係数 (-1 から 1 の間の実数値をとり、1 に近いときは2つの変数には正の相関があるといい、-1 に近ければ負の相関があるという) を求めた。6変数の相関係数を表3に示した。

オリエンテーション後のオリエンテーションの意義と不安は負の相関があり、友人関係場面における目標志向性尺度とは弱い正の相関がある。

8. オリエンテーション前のオリエンテーションの意義の高得点群と低得点群による不安得点、並びに友人関係場面における目標志向性得点のパーティションによる特徴

オリエンテーション前のオリエンテーションの意義の高・低得点群に関する不安得点、並びに友人関係場面における目標志向性得点の特徴をパーティションの使用により検証した。

[パーティションの定義]

対話的にデータを繰り返し分割し応答を予測する。分類木および回帰木(Classification and regression tree) という。尤度比カイ 2 乗 (G^2) が基準となる

各分岐候補の有意度を計算して最適な分岐を決定する。

オリエンテーションの意義(前)の得点が上位 1/4 にある人を高得点群(69 名)とし、下位 1/4 にある人を低得点群(71 名)とした、そして、両群の状態不安得点と友人関係場面における目標志向性得点の特徴を(ルール)を知るために、パーティションによる分岐を行った(図 4)。

オリエンテーション前の高得点群と低得点群のパーティションは友人関係場面における目標

志向性の分岐から始まる。これは、友人関係場面における目標志向性が状態不安よりも有意度が高いことを示している。友人関係場面における目標志向性得点は、33 点以上(78 名)と 33 点未満(62 名)で分岐される。33 点以上は、高得点群が 70.5% (55 名)であり、低得点群が 29.5% (23 名)である。33 点以上である人は、不安得点が 51 点未満と 51 点以上に分岐され、51 点未満は高得点群が 76.4% (55 名)を占める。このパーティションは、高得点群の 79.7% (55 名)が該当する。従って、高得点群は友人関係場面による目標志向性が平均値よりも高く、状態不安は平均値よりはやや高いが低い方向にあるという特徴をもつ。

一方、友人関係場面における目標志向性得点が 33 点未満は低得点群の人が 77.4% であり、

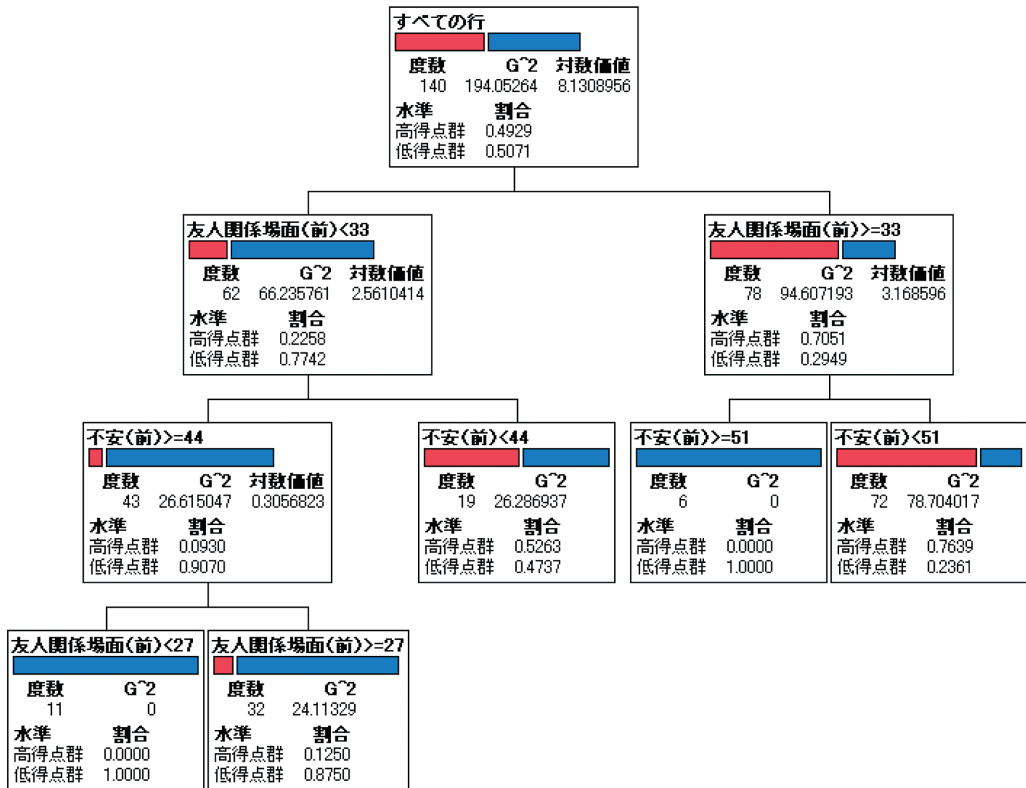


図 4 オリエンテーション(前)のオリエンテーションの意義と不安、並びに友人関係場面における目標志向性に関するパーティション

高得点群が 22.6% である。そして、不安が 44 点未満と 44 点以上に分岐する。44 点以上は低得点群が 91% であり、高得点群が 9% である。不安が 44 点以上は友人関係場面における目標志向性得点が 27 点以上と 27 点未満へと分岐する。27 点以上は低得点群が 87.5% であり、高得点群が 12.5% となる。このパーティションは、低得点群の 39.4% (28 名) が該当する。従って、低得点群は友人関係場面における志向性得点が平均値以下であり、状態不安は平均値以上であるという特徴をもつ。

9. オリエンテーション後のオリエンテーションの意義の高得点群と低得点群による不安得点、並びに友人関係場面における目標志向性得点のパーティションによる特徴

オリエンテーションの意義 (後) の得点が上位 1/4 にある人を高得点群 (73 名) とし、下位 1/4 にある人を低得点群 (73 名) とし、不安得点と友人関係場面における目標志向性得点についての分岐を行った (図 5)。

オリエンテーション後の高得点群と低得点群のパーティションは不安の分岐から始まる。これは、状態不安が友人関係場面における目標志向性よりも有意度が高いことを示している。

不安得点が 41 点未満と 41 点以上に分岐する。41 点未満は高得点群が 70.0% であり、低得点群が 30% である。次に、友人関係場面における目標志向性得点が 27 点以上と 27 点未満に分岐する。27 点以上は、高得点群が 72.7% であり、低得点群が 27.35% である。このパーティションは、高得点群の 72.6% (53 名) が

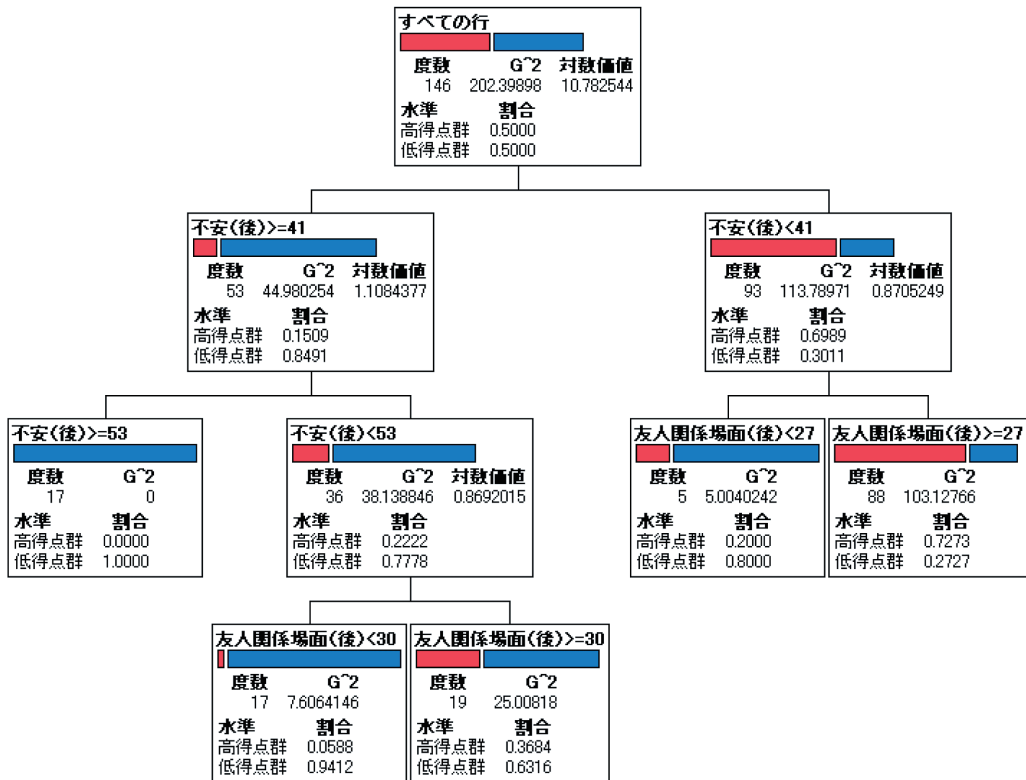


図 5 オリエンテーション (後) のオリエンテーションの意義と不安、並びに友人関係場面における目標志向性に関するパーティション

該当する。従って、高得点群の状態不安は平均値以下であり、友人関係場面における目標志向性は平均値よりはやや低いが高い方向にあるという特徴をもつ。

一方、不安得点が 41 点以上の人は、低得点群の人が 84.9% であり、高得点群が 15.1% である。そしてそれが、不安が 53 点未満と 53 点以上に分岐する。不安得点が 53 点未満の人は

低得点群が 77.8% であり、友人関係場面における目標志向性得点が 30 点以上と 30 点未満に分岐する。低得点群の 94.1% が 30 点未満である。このパーティションは、低得点群の 21.9% (16 名) が該当する。従って、低得点群は状態不安は平均値よりも高く友人関係場面における目標志向性は平均値以下という特徴をもつ。

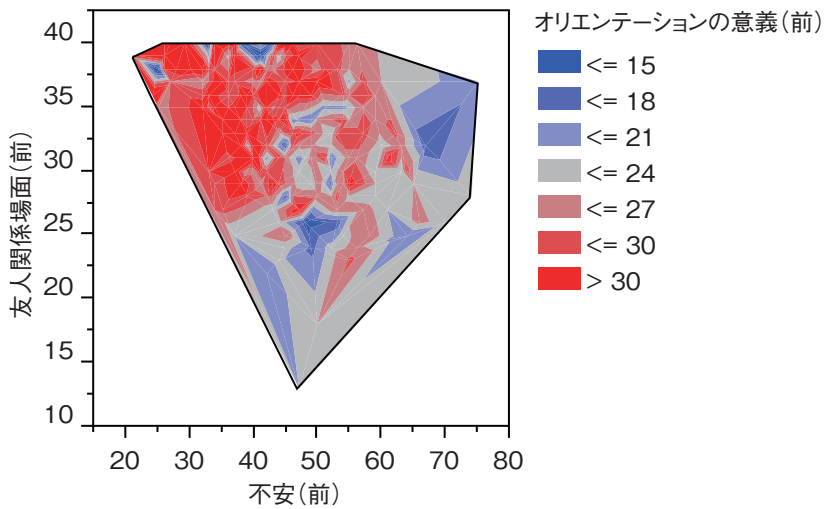


図 6 オリエンテーション前のオリエンテーションの意義と不安、並びに友人関係場面における目標志向性の等高線図

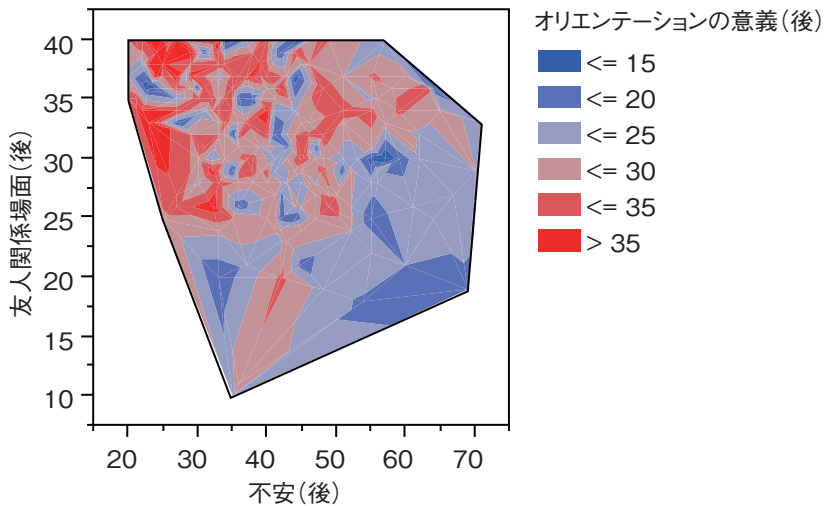


図 7 オリエンテーション後のオリエンテーションの意義と不安、並びに友人関係場面における目標志向性の等高線図

10. オリエンテーション前後にみるオリエンテーションの意義、状態不安、友人関係場面における目標志向性の3領域に関わる得点の変化

等高線グラフにより、オリエンテーションの前後におけるオリエンテーションの意義、不安、友人関係場面における目標志向性の3領域に関わる得点の変化を視覚的に捉えた。

3領域（オリエンテーションの意義、状態不安、友人関係場面における目標志向性）の得点の関連性を等高線図でみると、オリエンテーション後はオリエンテーション前よりも等高線図の範囲が拡大されている（図6と図7）。図の範囲の拡大は分散を表し、オリエンテーションの意義の効果の個人差を認めた。また、オリエンテーション後の意義が低得点の学生は不安が高く、友人関係場面における目標志向性も低いといえる。オリエンテーションの意義は不安の軽減が友人関係場面における目標志向性を高める効果があると考えられる。

IV ま と め

新入生に何が期待されており、どのように振る舞うかを教えることは、大学関係者すべての責務であり、丁寧に実行・計画される必要がある。学生にできるだけ早く関わり、意欲を教育的に意味ある活動へと具現化させる必要がある。

本調査・研究は、1泊2日の学外宿泊オリエンテーションの教育効果の検証を行った。その結果、オリエンテーションの意義の総得点は、オリエンテーション後が有意にオリエンテーション前よりも高かった。オリエンテーションの意義を問う項目は、「短大の先生に親しみを感ずる（感じた。）」、「短大に対して親しみを感ずる（感じた。）」、「入学した学科（コース）で目標をもち努力したいと思う。」そして、「オリエンテーションの期間中は有意義に過ごせると思う（過ごせたとと思う。）」という項目が含まれており、学外宿泊オリエンテーションの有効性が

立証されたといえる。

そして、オリエンテーション後のオリエンテーションの意義の総得点が高くなった要因に状態不安の軽減がある。状態不安はオリエンテーション後において、オリエンテーション前より有意に低くなるという結果を認めている。オリエンテーションに意義を感じたので状態不安が低くなったということもできるが、状態不安が低くなっていったのでオリエンテーションに更なる意義を見出したとも考えられる。

友人関係場面における目標志向性尺度の総得点においても、オリエンテーション前後で有意な差を認めたが、オリエンテーション後が低いという結果である。

友人関係は、より良好な関係を結び得点が高くなるのが望ましい。本調査で使用した「経験・成長目標」因子の項目には、「ちがう考えをもつ友だちと知り合いになって、いろいろと話してみたいと思う。」や「自分とは違った考えをもつ友だちの話を聞いてみたいと思う。」などがある。オリエンテーション前には、これらの気持ちが強かったと考えられるが、オリエンテーション終了時には、友人関係が十分に構築されず、総得点が下がったと推測する。友人関係の構築には時間と心の余裕が必要である。入学直後の友人関係であることを考えれば当然の結果であるといえる。そして、等高線図にみられるように、オリエンテーション後のオリエンテーションの意義得点が、状態不安得点と友人関係場面における目標志向性尺度得点に大きくは影響されない学生がいる。このように分散していることにより、友人関係場面における目標志向性尺度はオリエンテーション前後では後の方が低いという結果となった可能性がある。

オリエンテーションと学生生活の持続性の間に間接的なプラスの効果があるといわれる。より良い質のオリエンテーション・プログラムを組み、実施することが問われている。学外宿泊オリエンテーションは、拡大したオリエンテーションに資する機会を提供する。

今後、本研究結果を踏まえ、オリエンテーションの意義の項目内容の更なる検討や、オリエンテーションの企画の再考を行い、オリエンテーションをより発展させ深化させたいと考えている。

引用・参考文献

1. Perigo, D. J. & Upcraft, M. L. 1989 Orientation programs. In M. L. Upcraft, J. N. Gander & Associates (Eds.), The freshman year experience: Helping students survive and succeed in college. San Francisco: Jossey-Bass.
2. 清水秀美・今栄国晴 1981 STAI 日本語版 (STAI; STATE-TRAIT ANXIETY INVENTORY)

- (堀 洋道監修・松井 豊編 2001 心理測定尺度集Ⅲ 心の健康をはかる〈適応・臨床〉サイエンス社)
3. 黒田祐二・桜井茂男 2001 友人関係場面における目標志向性尺度 (堀 洋道監修・桜井茂男・松井 豊編 2007 心理測定尺度集Ⅳ 子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉サイエンス社)
4. 山田礼子監訳 2007 初年次教育ハンドブック－学生を「成功」に導くために－丸善株式会社 (Challenging and Supporting the First-Year Student – A Handbook for improving the First Year of College; M. Lee Upcraft, John N. Gardner, Betsy O. Barefoot, MARUZEN & WILEY)

〈資料〉

学外宿泊オリエンテーションの教育効果の検証 質問紙

オリエンテーション (前)

〈記入方法について〉

【I】心の状態を表現する文章が下に記述してあります。その各文章について、現在、今どの程度感じているか、あてはまると思う番号を選び、マークシートのその番号をぬりつぶしてください。あまり考える必要はありませんが、現在の気持ちを最もよく表現している番号を選ぶようにしてください。

〈選択肢〉

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. まったくそうである2. ほぼそうである3. いくぶんそうである4. まったくそうでない |
|---|

〈質問項目〉

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 平静である。 | 11. 自信がある。 |
| 2. 安心している。 | 12. ビリビリしている。 |
| 3. 固くなっている。 | 13. イライラしている。 |
| 4. 後悔している。 | 14. 緊張している。 |
| 5. ホットしている。 | 15. リラックスしている。 |
| 6. 動転している。 | 16. 満足している。 |
| 7. まずいことが起こりそうで心配である。 | 17. 心配である。 |
| 8. ゆったりした気持ちである。 | 18. ひどく興奮ろうばいしている。 |
| 9. 不安である。 | 19. ウキウキしている。 |
| 10. 気分がよい。 | 20. たのしい。 |

【II】あなたは友だち関係の中でどのようなことに関心がありますか。あなたが最もよくあてはまると思う番号を選び、マークシートのその番号をぬりつぶしてください。

〈選択肢〉

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. とてもあてはまる2. すこしあてはまる3. あまりあてはまらない4. まったくあてはまらない |
|--|

〈質問項目〉

21. ちがう考えをもつ友だちと知り合いになって、いろいろと話をしてみたいと思う。
22. 自分とは違った考えをもつ友だちの話を聞いてみたいと思う。
23. 自分とは違った性格をもつ友だちと付き合ってみることも大切だと思う。
24. 自分を深めるために、自分とは違った考え方を聞いてみることも大切であると思う。
25. 友だちといいあらせうことも良い経験になると思う。
26. 友だち関係の中で、自分を成長させていきたいと思う。
27. 友だち関係の中で自分がどれだけ成長していくか楽しみである。
28. 友だちからどう思われているか気にして何もしないよりも、積極的に友だちに働きかけようと思う。
29. 友だち関係の中でいろいろな経験をしていきたいと思う。
30. 友だちとけんかすることも、自分をみがくチャンスだと思う。

【Ⅲ】 関西女子短期大学のことや先生のこと、そして、この一泊二日のオリエンテーションについての文章が下に記述してあります。その各文章について、あてはまると思う番号を選び、マークシートのその番号をぬりつぶしてください。

〈選択肢〉

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. あてはまらない2. あまりあてはまらない3. どちらともいえない4. ややあてはまる5. あてはまる |
|---|

〈質問項目〉

31. 短大の先生に親しみを感じる。
32. 短大に対して親しみを感じる。
33. 短大の先生に安心して何でも相談できそうである。
34. 本短大に入学したことを誇りに思う。
35. 入学した学科（コース）で目標をもち努力したいと思う。
36. オリエンテーションの期間中は有意義に過ごせると思う。
37. オリエンテーションの期間中は楽しく過ごせると思う。
38. オリエンテーションの内容は難しそうに思う。

オリエンテーション（後）

〈記入方法について〉

【Ⅰ】 心の状態を表現する文章が下に記述してあります。その各文章について、現在、今どの程度感じているか、あてはまると思う番号を選び、マークシートのその番号をぬりつぶしてください。あまり考える必要はありませんが、現在の気持ちを最もよく表現している番号を選ぶようにしてください。

〈選択肢〉

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. まったくそうである2. ほぼそうである3. いくぶんそうである4. まったくそうでない |
|---|

〈質問項目〉

1. 平静である。
2. 安心している。
3. 固くなっている。
4. 後悔している。
5. ホットしている。
6. 動転している。
7. まずいことが起こりそうで心配である。
8. ゆったりした気持ちである。
9. 不安である。
10. 気分がよい。
11. 自信がある。
12. ビリビリしている。
13. イライラしている。
14. 緊張している。
15. リラックスしている。
16. 満足している。
17. 心配である。
18. ひどく興奮ろうばいしている。
19. ウキウキしている。
20. たのしい。

【II】あなたは友だち関係の中でどのようなことに関心がありますか。あなたが最もよくあてはまると思う番号を選び、マークシートのその番号をぬりつぶしてください。

〈選択肢〉

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. とてもあてはまる2. すこしあてはまる3. あまりあてはまらない4. まったくあてはまらない |
|--|

〈質問項目〉

21. ちがう考えをもつ友だちと知り合いになって、いろいろと話をしてみたいと思う。
22. 自分とは違った考えをもつ友だちの話を聞いてみたいと思う。
23. 自分とは違った性格をもつ友だちと付き合ってみることも大切だと思う。
24. 自分を深めるために、自分とは違った考え方を聞いてみることも大切であると思う。
25. 友だちといいあらせうことも良い経験になると思う。
26. 友だち関係の中で、自分を成長させていきたいと思う。
27. 友だち関係の中で自分がどれだけ成長していくか楽しみである。
28. 友だちからどう思われているか気にして何もしないよりも、積極的に友だちに働きかけようと思う。
29. 友だち関係の中でいろいろな経験をしていきたいと思う。
30. 友だちとけんかすることも、自分をみがくチャンスだと思う。

【III】関西女子短期大学のことや先生のこと、そして、この一泊二日のオリエンテーションについての文章が下に記述してあります。その各文章について、あてはまると思う番号を選び、マークシートのその番号をぬりつぶしてください。

〈選択肢〉

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. あてはまらない2. あまりあてはまらない3. どちらともいえない4. ややあてはまる5. あてはまる |
|---|

〈質問項目〉

31. 短大の先生に親しみを感じる。
32. 短大に対して親しみを感じる。
33. 短大の先生に安心して何でも相談できそうである。
34. 本短大に入学したことを誇りに思う。
35. 入学した学科（コース）で目標をもち努力したいと思う。
36. オリエンテーションの期間中は有意義に過ごせたと思う。
37. オリエンテーションの期間中は楽しく過ごせたと思う。
38. オリエンテーションの内容を理解するのは難しかった。